

平成 25 年度事業報告の附属明細書

I. 学術集会

1. 学術委員会

委員長 杉 原 健一

1. 定期学術集会について

定期学術集会のプログラムについて検討している。

第 114 回の特別企画や上級演題のテーマについては、本委員会で審議し、決定された。

来年の第 115 回のプログラムについても、本会として継続的に扱う特別企画のテーマや分野毎のバランスなどを考慮して検討している。

その他に以下の事項を決定し、原則として第 115 回定期学術集会から対応することとした。

①これまで整合性のとれていなかった領域は、次のとおりに 11 分類とする。

- ・上部消化管
- ・下部消化管
- ・肝胆膵
- ・心臓血管
- ・呼吸器
- ・乳腺/内分泌
- ・小児
- ・救急/外傷
- ・外科代謝栄養/感染
- ・基礎医学
- ・その他

②継続すべきセッションは次のとおりとする。

- ・会頭講演
- ・理事長講演
- ・特別講演（招請講演や教育講演などの名称を統一）
- ・特別企画（医療安全/医療倫理、専門医制度、外科医の労働環境、教育、NCD、女性外科医など）
- ・上級演題
- ・一般演題（ポスター含む）
- ・卒後教育セミナー
- ・臨床研究セミナー

③若手演者に対して次の賞を授与する。

名 称：若手優秀演題賞

条 件：40 歳未満の会員

採用数：15 題前後（楯を贈呈）

選考法：会頭に一任（領域を考慮して、一般演題から選考してもらう）

④研修医/学生セッションを次のとおり開催する。

- ・初期研修医セッション（卒後 2 年までを対象）
- ・後期研修医セッション（外科専門医を取得するまでを対象）
- ・学生セッション（土曜日に開催）

⑤シンポジウムの定義は次のとおりとする（ビデオシンポジウムの名称は使わず、ビデオを用いたシンポジウムであることをサブタイトルで示すものとする）。

→最近の重要課題について、それぞれの演者が専門的かつ独自的な意見や研究成果などを述べるものとし、総合討論は行わない。

⑥パネルディスカッションの定義は次のとおりとする（ワークショップなどの名称を統一）。

→与えられた課題に対し、立場や意見の違う複数の演者が問題提起し、議論を行って方向性を導くものとし、総合討論も行う。

2. 各種賞の推薦について

平成 24 年度から文化財団や科学財団などから各種賞の候補推薦が依頼された場合には、本委員会にて募集し、選定を行っている。